

# 要 請 書

平成26年11月6日

**厚木基地騒音対策協議会**

## 厚木基地騒音対策協議会

### 会員

神奈川県知事	黒岩 祐治 (会長)
横浜市長	林 文子
相模原市長	加山 俊夫
藤沢市長	鈴木 恒夫
茅ヶ崎市長	服部 信明
大和市長	大木 哲
海老名市長	内野 優
座間市長	遠藤 三紀夫
綾瀬市長	笠間 城治郎
町田市長	石阪 丈一
神奈川県議会議長	向 笠 茂 幸
神奈川県議会議員	藤 代 ゆうや
神奈川県議会議員	平 本 さとし
神奈川県議会議員	谷口 かずふみ
神奈川県議会議員	塩 坂 源一郎
神奈川県議会議員	笠 間 茂 治
横浜市会議長	佐 藤 祐 文
相模原市議会議長	須 田 毅
藤沢市議会議長	高 橋 八 一
茅ヶ崎市議会議長	広 瀬 忠 夫
大和市議会議長	菊 地 弘
海老名市議会議長	市 川 敏 彦
座間市議会議長	伊 田 雅 彦
綾瀬市議会議長	山 田 晴 義
町田市議会議長	上 野 孝 典

顧問

衆議院議員  
衆議院議員  
衆議院議員  
衆議院議員  
衆議院議員  
衆議院議員  
衆議院議員  
参議院議員  
参議院議員  
参議院議員  
参議院議員  
参議院議員

星野剛士  
甘利明  
あかま二郎  
河野太郎  
義家弘介  
後藤祐一  
阿部知子  
中西健治  
金子洋一  
島村大  
松沢成文  
佐々木さやか  
牧山ひろえ

平成 26 年 11 月 6 日

殿

厚木基地騒音対策協議会

会長（神奈川県知事）

黒 岩 祐 治

厚木基地における米空母艦載機の夜間連続離着陸訓練による航空機  
騒音の解消等に関する要請

厚木基地周辺では、200万人を超える住民が、航空機騒音により、長年にわたり堪え難い苦痛を強いられており、神奈川県及び基地周辺市は、かねてより、このような航空機騒音問題の抜本的解決を求めてまいりました。

こうした中、平成18年5月には在日米軍再編協議において、騒音被害の主な原因である空母艦載機を2014（平成26）年までに移駐させることや恒常的訓練施設を2009（平成21）年7月又はその後のできるだけ早い時期に選定することを目標とすることが日米両国政府間で合意され、ロードマップ<sup>(注1)</sup>が公表されました。

しかしながら、空母艦載機の移駐時期については、平成25年1月に防衛省から施設整備の全体工程を見直した結果、遅延するとの説明があり、同年10月には、日米両国政府間で2017（平成29）年頃までになることが確認されたところです。

また、恒常的訓練施設については、ロードマップでは移駐の前提とはされていないものの、いまだに設置場所が特定されていません。

さらに、移駐が実現するまでの間、基地周辺の住民は、特にNLP<sup>(注2)</sup>等の空母艦載機着陸訓練前後の激しい騒音や、墜落、部品落下、不時着等の事故への不安にさらされ続けなくてはなりません。

特に、平成24年5月には、空母艦載機の着陸訓練が3日間行われ、周辺住民は耐え難い苦痛を強いられました。最近でも、一步間違えれば重大な結果につながりかねない米軍機事故が相次ぎ発生し、今年の夏にはオスプレイが初めて飛来しています。

また、三次にわたる騒音訴訟に引き続き、第四次騒音訴訟地裁判決においても、基地周辺住民が受忍限度を超える騒音被害を受けているとの司法判断がなされたことは、改めてその負担の深刻さを示しています。

については、厚木基地騒音対策協議会では、一日も早い騒音問題の抜本的解決を図るため、国の責任において、特に次のことを早急を実現するよう要請いたします。

また、文書にてご回答くださいますよう併せてお願いいたします。

注1：ロードマップ… 在日米軍再編協議において平成18年5月1日に合意された内容を記載した文書。正式には「再編実施のための日米のロードマップ」。

注2：NLP…Night Landing Practice の略

## 1 早期かつ着実に空母艦載機の移駐等を実施すること

- (1) 貴職におかれては、過大な基地負担を負っている地元住民の強い思いを受け止め、1日も早い移駐の実現のため、施設整備や訓練空域の調整等を着実にを行うとともに、移駐にかかる諸課題の解決に向けた協議等に全力を尽くされるよう求めます。
- (2) 移駐の具体的なスケジュールや現在の進捗状況、移駐後の厚木基地周辺における騒音状況の予測について、「厚木飛行場からの空母艦載機の移駐等に関する協議会」等を通じ、関係自治体に対し、継続的かつきめ細やかな情報提供を行うよう要請します。

## 2 恒常的訓練施設を確保すること

2009（平成21）年7月又はその後のできるだけ早い時期に選定することを目標とするとされている恒常的訓練施設については、貴職の責任において、早期に選定し、移駐実現までに必要な施設整備等を終えるよう、また、その見通しについて、速やかに情報を提供するよう要請します。

## 3 移駐実現までの間も、騒音問題の解決に積極的に取り組むこと

- (1) NLPの硫黄島での全面实施及びNLP直前の集中的訓練の硫黄島の活用等

貴職におかれては、人口密集地域にある厚木基地周辺住民の深刻な騒音被害の状況を深く認識され、NLPの硫黄島での全面实施及びNLP直前の集中的訓練における硫黄島の活用等について、積極的に米側と調整するよう、強く要請します。

その実現に向けて、

ア 本協議会が提案している、いわゆる「直結方式」<sup>(注3)</sup>や硫黄島での予備日の設定等、必要な措置についての多角的な検討を行うこと

イ 支援態勢、施設の一層の拡充、整備を推進することを求めます。

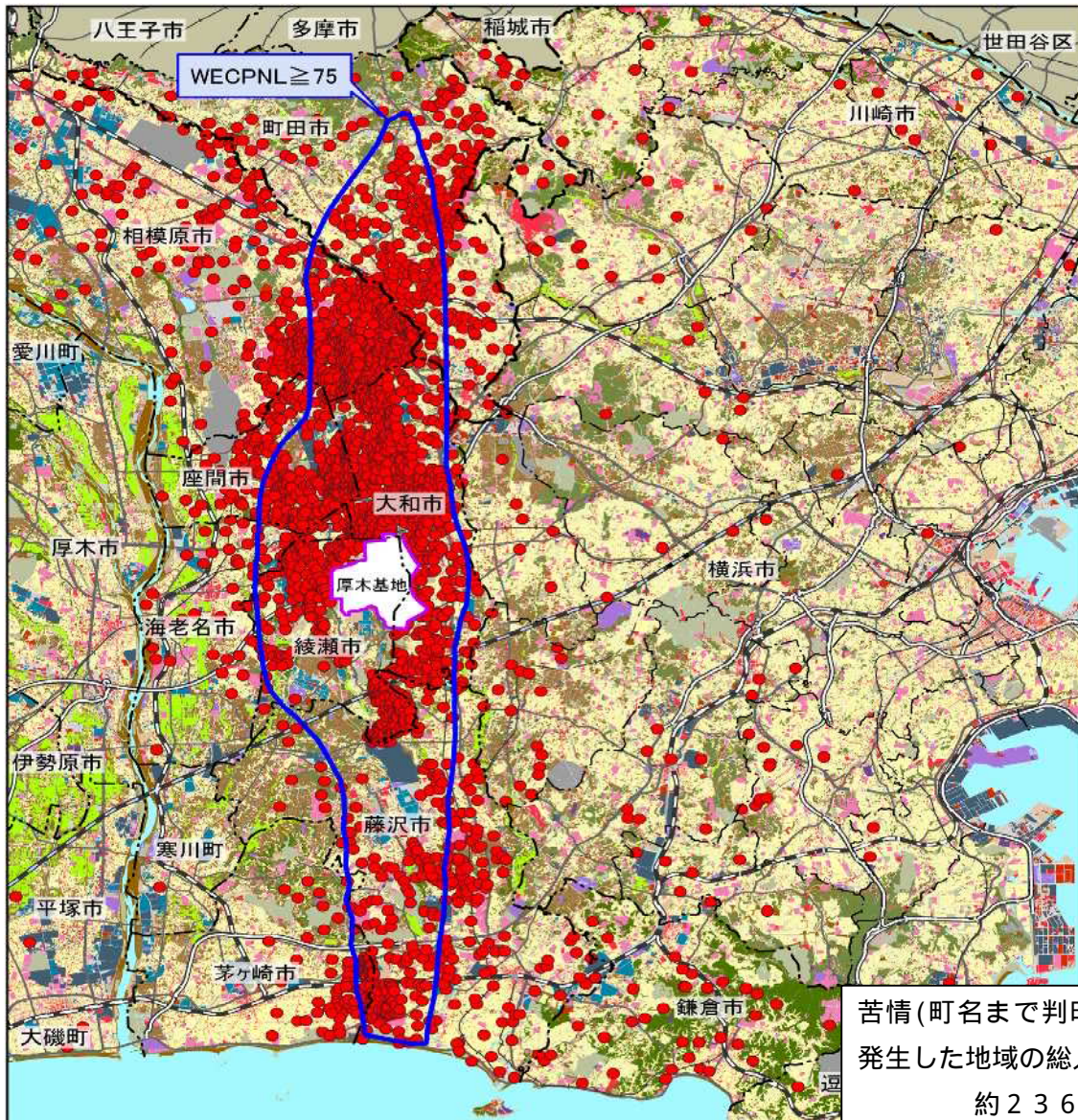
- (2) 激しい騒音の発生が予想される飛行に関する事前情報提供

住民の苦痛を少しでも軽減・緩和するために、NLP等の空母艦載機着陸訓練に限らず、激しい騒音の発生が予想される飛行については、貴職の責任において、適時、的確な情報提供を行うとともに、住民への十分な説明を行うよう要請します。

注3：直結方式・・・空母艦載機の帰還と着艦を空母と硫黄島の間で直接行うとともに、NLPと通常訓練をすべて硫黄島で行う方式

## 騒音苦情の発生地点で見る周辺住民への影響

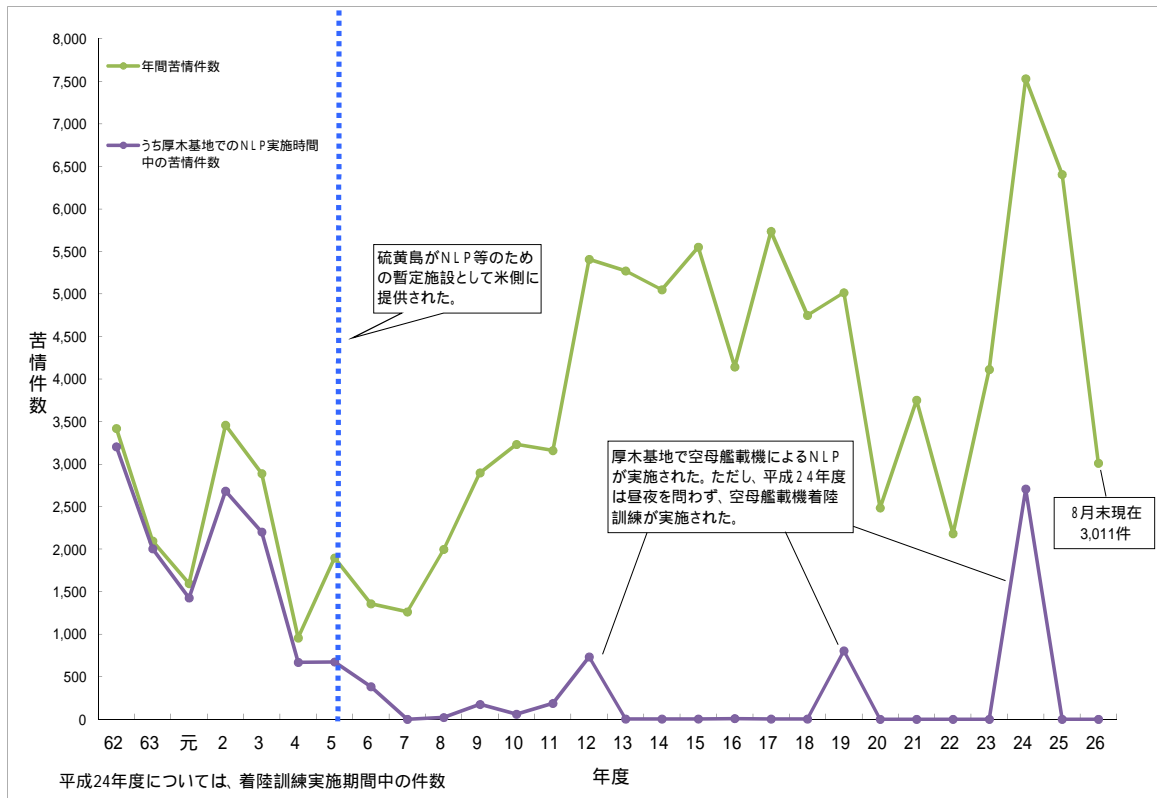
平成 23 年度に、県及び厚木基地周辺 12 市に寄せられた苦情 4,112 件の内、住所地(町名まで)が判明した苦情 3,012 件について、その発生場所を示した。(地図上の赤丸 1 つは、町名まで判明した苦情 1 件を表す。)  
 青い線は、国が平成 15、16 年度に実施した騒音調査に基づく WECPNL75 のコンターライン。



- ・ この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 20 万分の 1 地勢図を複製したものである。(承認番号 平 24 関複、第 40 号)
- ・ 「平成 17 年度神奈川県都市計画基礎調査」及び「平成 19 年度東京都土地利用現況」を用いて作成  
 苦情発生地域の総人口について、横浜市、川崎市については、平成 23 年 9 月末日現在の統計

苦情を受けた自治体	大和	綾瀬	相模原	藤沢	茅ヶ崎	海老名	座間	横浜	町田	川崎	鎌倉	平塚	県	合計
苦情件数	662	318	705	290	53	47	303	62	303	15	30	4	220	3,012

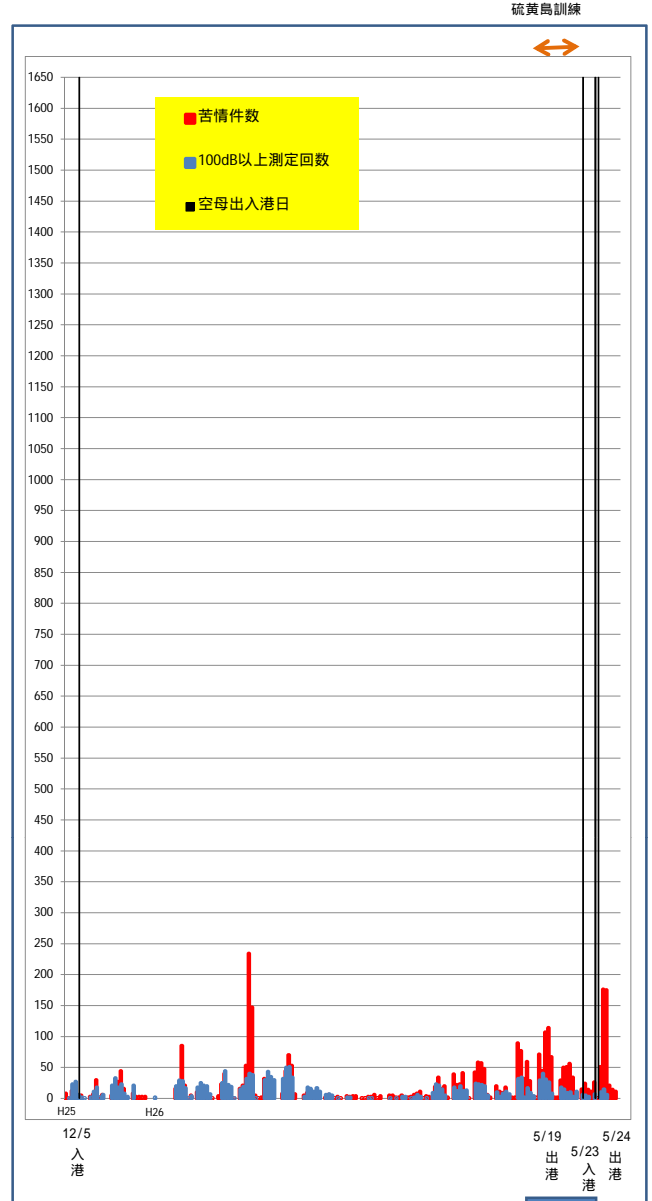
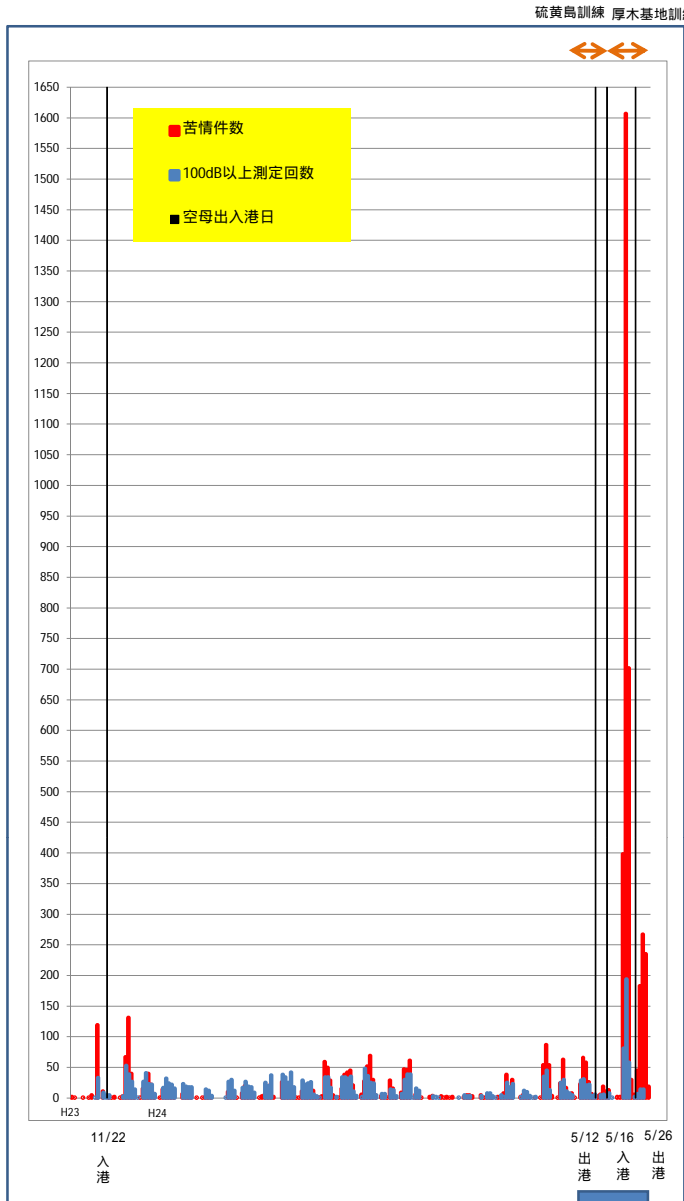
(グラフ - 1) 年度別苦情件数及びNLP時間中の苦情件数





(グラフ-2-1) 平成23年11月～平成24年5月  
米空母ジョージ・ワシントン  
入港前後の苦情件数

(グラフ-2-2) 平成25年12月～平成26年5月  
米空母ジョージ・ワシントン  
入港前後の苦情件数

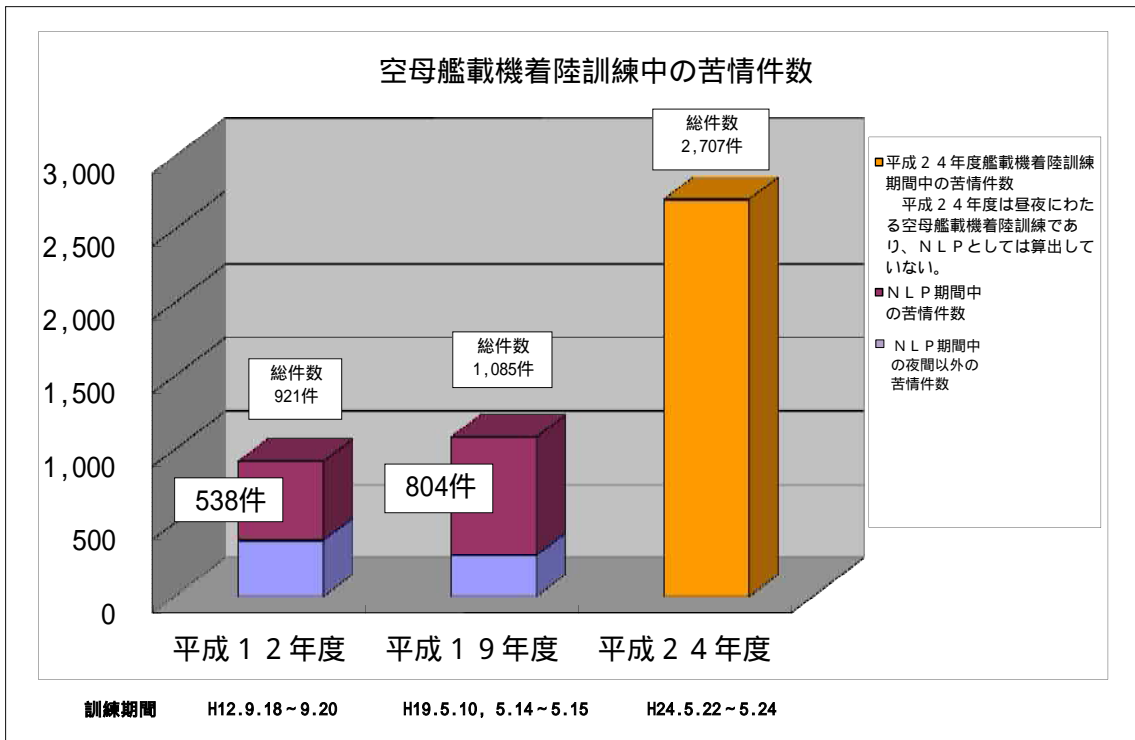


訓練場所	訓練日時	苦情件数
厚木基地	5月22日	398件
	5月23日	1,607件
	5月24日	702件
	計	2,707件
硫黄島	5月9日～17日	145件

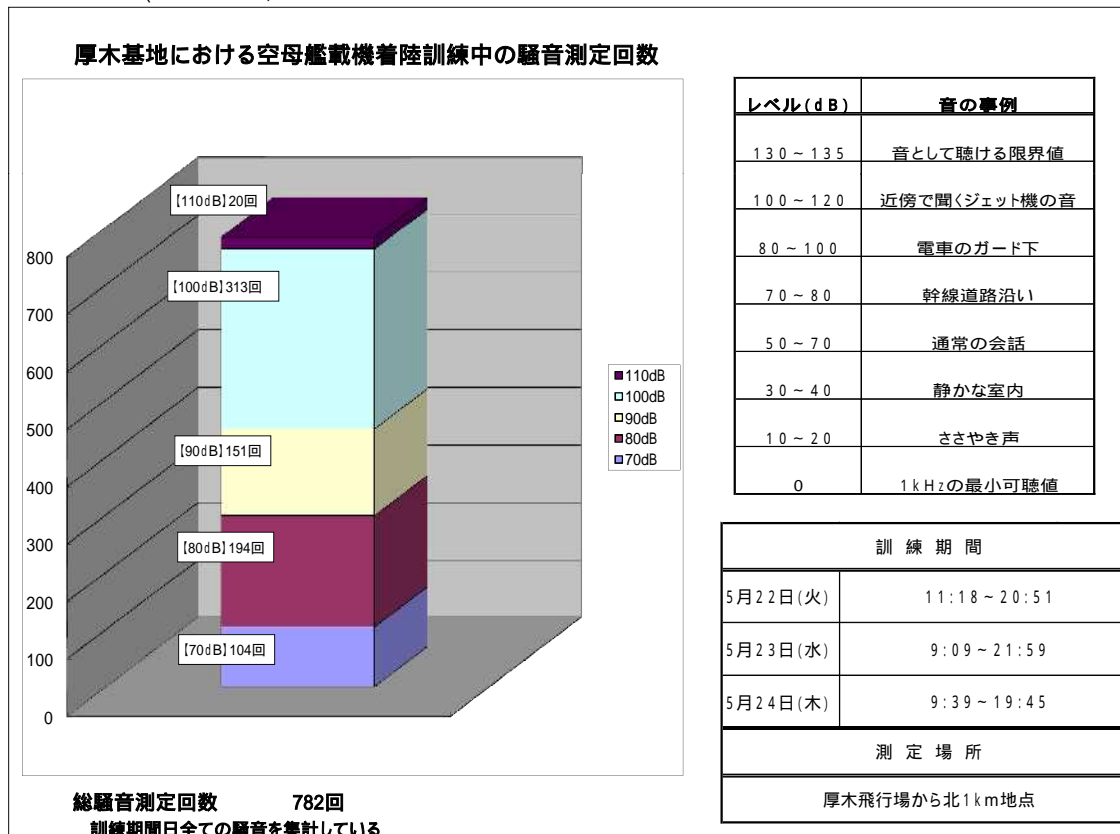
訓練場所	訓練日時	苦情件数
硫黄島	5月10日～20日	270件

平成24年5月22日～24日の間は、空母運用上の都合により、厚木基地において訓練が実施され、苦情件数が2,700件以上に上った。

(グラフ - 3) 厚木基地における空母艦載機着陸訓練中の苦情件数



(グラフ - 4) 平成24年度厚木基地空母艦載機着陸訓練中の騒音測定回数等



## 厚木基地問題に関する近年の状況

平成 14 年 2 月	日米両政府間で、できる限り多くの N L P を硫黄島において実施することが了解された。
14 年 3 月	<b>厚木基地で N L P が実施された。</b>
14 年 5 月	デモンストレーションフライトが廃止された。
14 年 9 月	E A 6 B プラウラーからエンジンのパネルが落下した。
14 年 10 月	<b>厚木基地で N L P が実施された。</b>
15 年 1 月	<b>厚木基地で N L P が実施された。</b>
15 年 1～2 月	瀬戸内海最大の無人島に N L P 訓練施設を含む防衛施設の誘致の動きがあったが、白紙撤回となった。
15 年 3 月	S H 6 0 ヘリから部品が落下した。
15 年 5 月	キャンプ座間所属の U H 6 0 ヘリが上智大学グラウンドに不時着した。
15 年 10 月	厚木基地で N L P を実施するとの通告があったが、初めて硫黄島での日程を延長して N L P を実施し、厚木基地では実施されなかった。
15 年 11～12 月	F A 1 8 F スーパーホーネット戦闘攻撃機 1 3 機が、F 1 4 トムキャットに代えて、配備された。
16 年 2 月	<b>厚木基地で N L P が実施された。</b>
16 年 7 月	<b>厚木基地で N L P が実施された。</b>
16 年 8 月	第五空母航空団所属のヘリから銃弾 2 0 0 発が落下した。 横田基地所属のヘリが、みなとみらい地区ヘリポート付近に不時着した。
16 年 10 月	F A 1 8 E スーパーホーネット戦闘攻撃機 1 3 機が F A 1 8 C ホーネットに代えて、追加配備された。
16 年 11 月	F A 1 8 C ホーネットからミサイルの羽根の一部が落下した。
16 年 12 月	F A 1 8 C ホーネットから部品の一部が脱落し、藤沢市内の工場の屋根に穴を開けた。
17 年 1 月	<b>厚木基地で N L P が実施された。</b>
17 年 2 月	キャンプ座間所属のヘリが伊勢原市の成城学園グラウンドに不時着した。
17 年 4 月	飛行を終えて厚木基地に戻った第五空母航空団所属の艦載機 2 機からハシゴの一部等の部品が紛失しているのがわかった。
17 年 5 月	<b>厚木基地で N L P が実施された。</b> 厚木基地所属のヘリが部品を紛失した。
17 年 7 月	藤沢市片瀬海岸に厚木基地所属のヘリが不時着した。
17 年 10 月	<b>厚木基地で N L P が実施された。</b> 在日米軍再編協議において、空母艦載機の移駐案が合意され、「日米同盟：未来のための変革と再編」(中間報告)が公表された。
18 年 1 月	約 2 0 年ぶりに住宅防音工事区域の見直しが行われた。
18 年 5 月	在日米軍再編協議において、2 0 1 4 (平成 2 6) 年までの空母艦載機の移駐が合意され、「再編実施のための日米のロードマップ」(最終報告)が公表された。 <b>厚木基地で N L P が実施された。</b>

18年 5月	第五空母航空団所属のC 2 プロペラ機が航空機の部品の一部を落下した。 在日米軍再編に関する基本方針が閣議決定された。
18年 7月	厚木基地第三次騒音訴訟の控訴審判決があった。 (W E C P N L 7 5以上の損害賠償請求が認められるなど、原告側の一部勝訴)
18年 10月	<b>厚木基地でN L Pが実施された。</b> 第五空母航空団所属のヘリから懐中電灯が落下した。
19年 2月	F A 1 8 が部品を紛失した。
19年 5月	<b>厚木基地でN L Pが実施された。</b>
19年 6月	横田基地所属のU H 1 Nヘリが横浜市金沢区内の公園に不時着した。
19年 12月	厚木基地第四次騒音訴訟が提起された。
20年 6月	横田基地所属のU H 1 Nヘリが相模川河川敷に不時着した。
21年 2月	綾瀬市上空でF A 1 8 Eスーパーホーネットからゴム製シールが落下した。
22年 1月	F A 1 8 Eスーパーホーネットから金属製部品が落下し、綾瀬市内の民家の一部を破損した。
22年 3月	F A 1 8 Cホーネットから金属製部品が落下した。
23年 2月	寒川町上空で第五空母航空団所属のヘリから金属製ブイが落下した。 平塚市内の相模川河川敷に厚木基地所属のヘリが緊急着陸した。
24年 2月	E A 6 B プラウラーから機体外部パネルが落下した。
24年 3月	E A 6 B プラウラーの後継機として、E A 1 8 G グラウラーが厚木基地に配備された。
24年 5月	<b>厚木基地で、昼夜を問わず空母艦載機による着陸訓練が実施された。</b>
25年 1月	防衛大臣政務官が来県し、地元自治体に対し、空母艦載機の移駐の遅延等について説明を行った。
25年 2月	引き続き、2014(平成26)年までに移駐することを強く求め、併せて国や米側が、自治体へ情報提供等を行うための枠組みを早期に構築するよう、防衛大臣及び外務大臣へ要請を行った。
25年 5月	「厚木飛行場からの空母艦載機の移駐等に関する協議会」が設立された。
25年 10月	日米両国政府間において、空母艦載機の移駐が、2017(平成29)年頃までに完了することが確認された。
25年 12月	第五空母航空団所属のM H 6 0 Sヘリが三浦市三崎に不時着した。
26年 1月	綾瀬市内で、F A 1 8 Eスーパーホーネットから金属製部品が落下した。
26年 5月	厚木基地第四次騒音訴訟の地裁判決があった。

## 住民から寄せられた騒音被害に関する意見

平成25～26年に県及び各市へ寄せられた意見の中から一部について掲載します。

### 航空機の飛行や騒音について

#### 飛行内容に関する意見

朝方や夜も飛行していて、恐怖を感じる。土日祝日も関係なく飛行するのは止めてほしい。

朝6時頃から深夜1時頃まで1日に50機程の米軍機が低空飛行しており、騒音がひどい。屋根が振動してしまう程の騒音である。

小中学校の入学式があったが、セレモニーの最中米軍機の飛行騒音があった。

今年に入って昨年に比べ飛行機が低く飛んでいる。昨夜も夜9時半頃から戦闘機の音が非常にうるさかった。

航空機の騒音や振動がひどい。夜中でも轟音がする。去年の暮れ頃からひどくなっていると感じる。

連日にわたり早朝から深夜まで騒音が激しい。夜も昼間と同じくらいひっきりなしに飛んでいる。住民が困っているということを強く米側へ伝えてほしい。

なぜこんなにうるさいのか。4機編隊で飛んでいる。もっと上空で飛ばしてほしい。

航空機の騒音がひどい。朝から夜まで上空を低空で、5分おきに飛行している。海上を飛行してほしい。

#### 健康被害に関する意見

いつまでジェット機は飛行するのか。騒音で家族が体調を崩しており、もう引っ越すしかないと考えている。

戦闘機の音を聞くと頭痛・吐き気がして体調不良の症状が出てきている。本当に助けてほしい。ただ静かに普通の生活がしたいだけなのだ。

安眠妨害で本当に迷惑だ。体調も悪い。どこに怒りをぶつけたらいいのか。

航空機の騒音を聞くと頭痛がおきる。精神的にも良くない。まるでどこかの戦場のような騒音だ。

航空機が夜中まで飛行しており、気になって全く眠れない。睡眠不足もあり、疲れも取れず、妊婦特有の痛みも軽減しない。

### 生活被害に関する意見

朝からTVや会話が聞こえない。住宅地の上を飛ぶなんて考えられない。

せめて夜くらいTVや家族との会話を楽しみたいのに、それができないほどの米軍機の騒音である。夜くらい静かに生活させてほしい。

戦闘機の絶え間ない爆音で、家族団らんや会話もできない状況だった。住宅地でこんな光景があっているのか。生活妨害だ。

航空機が物凄い轟音で上空を通過した。期末試験の最中で、熱心に勉強している子供達の妨げになる。

23時45分頃爆音で目が覚め、1時間程眠れない状態が続いた。子供も目が覚めた。自分は仕事をかかえ、寝不足は翌日の活動に影響がある。普段でも20時頃の飛行には頭を抱えているが、深夜の飛行訓練は異常だと思う。

米軍機の爆音がひどい。TVの音が全く聞こえない。NHKの放送受信料助成について、対象区域を拡大してほしい。

### 情報提供に関する意見

自治体が騒音について把握している情報が少ないのではないかと感じる。

戦闘機による騒音が朝早くから夜遅くまで1日中聞こえておりうるさいが、何がいったのか。事前に情報はもらえないのか。

せめて航空機の飛行に関する具体的な理由の説明をしてほしい。このような意見が集まれば大きな力になるのではないかと思いき意見する。

航空機の騒音が発生する区域であることをもっと周知すべきであるとする。

何年も前から電話をしているが状況は改善されない。航空機が飛行する時間も分からない。どうなっているのか。

多いときは2機3機と複数で飛行している。市民に飛行情報を教えてください。

### 国の住宅防音工事に関する意見

現在の住宅防音工事の助成対象区域は地域の実情にあっていない。

自宅の真上を飛行しているのに、道路向かいで、一方が住宅防音工事の助成対象、もう一方が助成対象外と分かれてしまうのはおかしい。住宅防音工事の助成対象範囲を拡大してほしい。

### その他

厚木基地の空母艦載機は、今年移駐すると思っていたのに、遅れるとはどういうことなのか。